

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570102543		
法人名	有限会社 美大		
事業所名	グループホーム年輪		
所在地	宮崎市大字恒久5983番地		
自己評価作成日	平成26年8月8日	評価結果市町村受理日	平成26年10月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.in/45/index.php?action=kouhou_detail_2013_022_kan=trug&amp;lievosyoCd=4570102543-00&amp;PrefCd=45&amp;WarainCd=022">http://www.kaisokensaku.in/45/index.php?action=kouhou_detail_2013_022_kan=trug&amp;lievosyoCd=4570102543-00&amp;PrefCd=45&amp;WarainCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成26年9月12日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

稲刈りの済んだ田圃は、赤トンボが群れ遊んでいます。利用者様がかつて見た幼いあの頃が、いま目の前にあり、懐かしい家族が、友が、微笑んでいます。私達のホームは閑静な住宅地と豊かな自然に囲まれ、1キロ半径に10か所の医療施設やショッピングセンターがあり、恵まれた環境が、高齢者の毎日の暮らしを支えています。  
また、2カ月毎の家族会・運営推進会議には、3カ所の保育所と知的障害者通所施設を運営する、社会福祉法人の理事長に毎回出席していただき、豊富な福祉経験に立脚したアドバイスやご指導をいただいています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム長と管理者は、利用者本位のその人らしさを保つ生活支援を根底にしている。職員の和が利用者笑顔につながる。職員の意見や提案を積極的に受け止め、運営に反映させている。職員全員で事態の解決に向けて検討・協働し、職員間で支援方法を共有して、次のケアに生かしている。職員の笑顔の声かけは、自然と利用者の笑顔を引き出し、利用者自身が他の利用者を支えようとする力にもなっている。ホーム周辺の田圃風景は、四季の変化の中で五感を刺激し、間近に触れ合うことで、共に生活するもの同士の絆を深めている。地域の中のホームとして、地域との交流もあり、安全対策された日常の中で、穏やかにゆったりとすごしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を掲示し、各自就業前に毎日読みあげ、日々の介護で実践している。	管理者と職員は、法人の運営理念を共有し実践しているが、ホーム独自の理念は作っていない。	具体的なケアサービスを、簡潔な言葉で表現したホーム独自の理念を、全職員で検討することを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業主が長年暮らしている場所であり、古城保育園や近隣のバデイサービスとの交流など、地域とのつながりは深い。利用者、職員も、行事以外でも日常的に顔見知りになっている。	ホーム長の住居が2階にあり、地域との付き合いも長く、なじみの関係により、ホームは地域に受け入れられている。地区の清掃に参加したり、地区の水かけ地蔵祭りのお旅所になっており、日常的に地域との交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の方の介護の相談はいつでも受けられるよう、通りから見え易い所に掲示している。また、災害時など、要介護者の受け入れができることを表明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、利用者の状況や職員の取り組み等を具体的に報告している。会議中は、度々、本人や家族の意見・要望を表明して頂くよう促し、改善できることについてはすぐに対応している。	前回の外部評価を通じて、参加者からの意見が増えるよう、家族の来訪時に更なる交流を図るよう努めたところ、運営推進会議で様々な意見が出るようになり、それらをサービス向上に反映させている。今後は、新たなメンバー拡大を検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	手続き上の疑問点などは、窓口まで足を運んで相談したり、市町村担当者の訪問がある時は、日頃の取り組み内容や利用者の状況などを、詳しく伝えるようにしている。	市町村担当課へ直接出向いて相談し、助言を得るなど、市町村との協力連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に積極的に参加し、学んだことを会議で全員に報告し、事業所内研修も行い、実際のケアの現場で活かしている。出入口は、7時から20時迄鍵をしない等、身体拘束のないケアを実践している。	全職員は、ホーム内・外の研修等で拘束による弊害を理解しており、利用者の安全と危険性を意識しながら、言葉も含め、拘束しないケアの実践に努めている。日中は、出入口を開錠し、利用者は自販機のコーヒーを買い出たり、自由に行き来している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は厳に慎み、利用者同士の言動にも心を配っている。外部研修はもとより、事業所内研修でも繰り返し学ぶ機会を設け、虐待防止の徹底を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所内・外での研修で学んでいる。2名の被後見人がおられ、後見人と緊密に連絡を取り合っており、その方の生活を支えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は必ず個別できちんと説明し、同意を得て締結している。改定については、家族会で議論し、理解や賛意を得てから実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族会・運営推進会議を開催し、自由に話してもらえる時間をつくっている。また、日頃の訪問時にも話しやすい雰囲気づくりに心がけており、寄せられた意見・要望は職員に周知し、反映できるようにしている。	まぶしさを防ぐすだれを掛けてほしいとの要望に応じている。丁寧すぎる言葉は他人行儀になるので、親しみやすい言葉での家族の要望に、ホームは全職員で協議し、利用者の尊厳を尊重しつつ、なじみの方言も交えながら生活を支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月3館合同の職員会議を開いており、自由に意見を述べあっている。また、日頃から職員同士も家族的雰囲気ですぐに提案する機会があり、採用された意見は実践している。	ホーム長は、利用者本位のホームでありたいと、日々利用者と触れ合い、状態や情報を把握し、職員からも聞く機会を設けている。職員も、利用者目線で意見や要望を出している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の状況を把握し、勤務シフトの調整等、柔軟に対応し、働きやすい環境になっている。キャリアアップや勤務実績の評価を行い、その成果を手当て面で処遇している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には、各職員の経験に応じて積極的に派遣している。内部でも月2回、定期的に勉強会を開いている。個別の課題については、日々のケアのなかで、施設長、管理者がアドバイスをしたり、お互いにアイデアを出し合ったりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に、医療機関系のグループホームとの相互訪問及びデイサービスと交流をしている。職員にとっては、仕事上での良い刺激を受ける交流の場となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化に伴う本人や家族の緊張・不安の解消に向け、コミュニケーションを図り、一日も早くホームになじんでもらうよう努めている。また、担当職員を決め、きめ細やかな対応ができるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の生き立ち、職業歴及び入居前の家庭環境を把握し、家族等とのコミュニケーションを密にとり、希望や要望が表出しやすいように職員から働きかけ、信頼の構築を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設入所を検討している方には自由に見学してもらい、実際のホームでの生活を見てもらったり、体験入所をしてもらうこともある。入所後の変化に応じて、利用できるサービスについても十分話し合いをして、納得した上でのサービス利用になるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の好きなこと、きれいな事、できること、できないことを把握し、他の入居者様、職員共に助け合い、協力しあえる関係が築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族ファイル・ホーム便り・電話等で本人の近況を密に報告し、通院や本人が希望する買い物等は、原則的に家族にお願いしている。また、ホームの行事の案内を適宜行い、面会の機会を創出している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	それまでのつながりが継続できることを大切にするため、7時から20時迄は施錠せず、自由に面会や外出ができるよう支援している。身近な方がいない場合は、職員が同行して馴染みの場所へ出かけることもある。	出入り口を日中は開錠しており、なじみの人達が自由に訪ねたり、家族の協力も得て、なじみの人、場所への外出支援もしている。生まれ故郷に同行することもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの良い関係が保てるよう、相性も考慮して、座席の位置を工夫したり、ゲームや趣味を通じて相互理解を促し、他人との交わりで喜びが見いだせるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等による退所後も訪問したり、家族や医療機関等の相談や照会にも応じている。不幸にして死亡された場合は、葬儀に参列したり、家族の心の支えになれるよう、電話や訪問によるケアをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	まず、本人がいま何をしたいかを聞くようにしている。意思表示が難しい方については、表情や日頃の行動パターンを考慮し、本人の思いを汲み取るようにしている。	利用者との日々の会話やしぐさなどから、家族の協力も得て、利用者の思いや意向の把握に努めている。管理者は、若い職員に利用者一人ひとりの思いや意向を把握する視点や理解の仕方を伝え、共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、地域包括支援センター、医療機関、行政、他施設利用時の情報収集に努め、本人や家族の意向を聞き、これまでの生活の延長線上に今の生活があるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各人の生活記録は、努めて詳細に個別日誌に記録し、申し送りやスタッフ会議で報告や協議をし、情報の共有、把握を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書は、契約書のように法的拘束力があり、計画書に記載した以上それを行わなければ債務不履行になることから、本人、家族、職員等と十分に協議し、現状を踏まえた選択肢の中から、ベターな計画を作成している。	本人や家族の要望・意向を含め、職員全員で利用者本位の介護計画を作成している。本人の状態が変化した時は、随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別ケア記録に残し、重要な連絡等は申し送り簿に記入し、職員間で共有できるようにし、定期的に振り返って次の計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりのニーズに合わせて、受診、外出同行、成年後見制度、訪問診療・看護、出張理・美容等が適切に利用できるよう、家族会でも説明し、支援している。		

宮崎県宮崎市 グループホーム年輪

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	積極的にボランティアの受け入れや地域の行事、市民一斉清掃等に参加している。中学生や県看護師会の福祉体験及び介護初任者研修生の受け入れを行っている。ホームの周囲は緑豊かな田園地帯であり、散歩や自然観察が楽しめる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人、家族で決めてもらっている。受診時には、日頃の状態を書面、口頭で詳しく伝え、体調の変化や精神の変調が大きな場合は電話相談する等、緊密な関係を築いている。	数か所の協力医療機関と連携し、本人や家族が望む医療が円滑に受けられるよう、家族の協力も得ながら支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタルチェックや体調、気分等の変化を記録し、ホームの看護師は必ず目を通すようにしている。気懸りな面が表れた場合は、訪問看護師にも相談し、服薬の件は、ホームの経営者である薬剤師のアドバイスも受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	何度も足を運び、本人、家族、病院関係者と会い、情報提供書の補足説明や入院中の本人の一日も早い回復をサポートしている。また、入退院時の環境変化に本人が順応できるよう、折を見て面会している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に至る前に、療養期、終末期をどこで過ごすかを、本人・家族等と十分に話し合う。ホームは看取りの事例も有しており、先ず本人の希望を最大限尊重し、主治医も交えて支援方法を協議し、当初の希望に変更がないか、数度に亘り確認することになっている。	状態変化に伴い、本人や家族の意向の変化を確認しつつ、主治医や訪問看護、関係者と連携しながら、本人や家族の希望に沿う支援をしている。最近、看取りをした例があり、今後の支援に生かすために、職員一人ひとりがどのような思いで支援したのか、全員でよりよいものを目指すために話し合う機会をもっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練や研修を行い、備え付けのAEDの使用も反復練習を行っている。応急手当は、消防署の講習に職員を参加させ、受講者の指導で、全職員が初期対応可能な体制を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルも作成し、定期的に夜間も想定した訓練や研修を行っている。地元消防団とは応援協定を締結しており、ホームの東50メートルの地点には、新たに消火栓が設置された。地震、水害については、万が一に備え、向いの高台にある野崎病院敷地に一時避難する。	地域の協力も得て、定期的に避難訓練を行っている。高台の避難場所の確保、避難手段、毛布を使つての救出の仕方、通路の確保、手作りの防災頭巾、水や食料などを準備・整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳、プライバシーの保護をホームの理念として掲示し、毎就労前には必ず読みあげ、心に刻んでいる。各人の信条、価値観を重んじ、言葉遣いやトーン、スピードに気を配り、サポートしている。	職員は、利用者と向き合い、穏やかに、ゆっくりと言葉をかけるように努めている。一人ひとりを尊重した言葉かけが利用者の笑顔になることを、職員は日々実感している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	先ず本人の思いを尊重する。意思表示が困難な方は、日頃の行動パターンから思いを汲み、提案方法で意思確認を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には日々の生活ペースを念頭におくが、その日の体調や気分に合わせて、本人の思いがかなえられるよう、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔に心がけ、本人の好みが活かされるようにしている。日々の生活にメリハリと潤いを与えられるよう、おしゃれの話題を出し、関心を持ってもらえるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者も調理をしていただき、材料を刻む音、香り、彩り、味付けに工夫し、五感で食事を楽しんでもらえるように心がけている。見守りを行いながら、職員と一緒に食卓を囲んでいる。	調理や片付けなど、利用者それぞれができる力を出し合いながら、食べる楽しみとなるよう支援している。また、介助を要する利用者の誤嚥を防ぎ、同じ目線になるよう、職員は低い椅子に腰かけ、介助しながら、同じ物を食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部の管理栄養士と相談し、バランスの取れた献立表を作り、利用者によってはミキサー食なども用意する。食事量、水分量を記録し、必要に応じてDr.、Ns.と相談しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、きちんと口腔ケアができるようにしている。自分でできない方には、職員が介助している。また、困難な方についてはDr.に相談をし、トローチの利用など適切に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	究極は「おむつ外し」を目標とし、一定の間隔においてトイレ誘導を行うとともに、その日の体調を念頭において、排泄サインを見逃さないように注意している。	トイレで排せつできるよう自立支援している。動作で察知したら、本人の耳元でささやき、トイレへ案内している。本人の自尊心を大切に、職員間ではサインで共有している。リハビリパンツから布パンツに変わった方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材は、食物繊維が多いものを選び、ヨーグルトや乳製品の提供や水分摂取に気を配っている。各人の排泄表に記入し、便秘のチェックをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	概して、高齢になると入浴を拒まれる傾向にあるが、ゆったり楽しんでいただけるよう、体調や気分を観察し、タイミングを計りながら入浴を勧めている。	利用者の体調や気分に合わせて、入浴を楽しめるよう柔軟に支援している。入浴を拒否される場合は、本人の楽しみ、喜びごとを入浴後に準備したり、強制せずに翌日に勧めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の散歩等の適度な運動が、入眠の大事な要素であると考え、努めて体を動かしていただくようにしている。運動後は、飲み物を用意して十分に休息がとれるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	会社代表が薬剤師であり、薬効や副作用、用途等についてはファイリングされており、与薬の際には複数の職員でチェックし、誤薬の防止や症状の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所前から飼っていた鳥の世話、得意のハーモニカ演奏、他の利用者の見守り、話し相手、得意料理の披露など、できる力を発揮してもらい、皆で喜びを分かち合っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	体調の確認や希望を聞きながら、日常の散歩や時々外出を支援している。訪問看護師とグランドゴルフに行く方、家族との墓参り、友人との外食、スタッフと買い物、外食など、本人の思いにそった支援をしている。	4～5人の利用者は、朝に体調と気分に合わせてホーム周囲のあぜ道をホーム長と共に散歩している。また、受診の帰りに買い物をしたり、家族の協力も得て、墓参りやドライブなど、一人ひとりが日常外出できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理し小遣帳をつけている方、本人、家族で決めた一定額を持ち外出時に買い物をされる方など、家族、成年後見人と相談しながら、買い物を楽しんでいただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書きたい人には便箋・封筒を準備し、すぐ書けるようにしている。本人の依頼があれば代筆に応じている。電話をかけたい人には自由にかけいただき、プライバシーを配慮して、見守るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゴキブリ等の害虫駆除を業者に依頼するなど、清潔の保持に努めている。季節の花、お雛様、七夕飾り等で季節感を提供している。施設臭を消すため、常に空気清浄機を運転し、居心地面に配慮している。	共用の空間は、空調やすだれで調整したり、職員の声も静かにして、利用者が自由に自分の居場所でゆったりくつろげる雰囲気を作っている。トイレの場所を利用者のなじみの言葉で分かりやすく表示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各人の相性やその時々感情面を観察し、座席の配置を工夫している。孤独感を持たないように、職員が話しかけたり、お茶を勧めたり工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室で心や体を休められるよう、仏壇や馴染みの物を持ち込み、家族の写真、趣味の物を飾るなど、本人や家族の意向を尊重し、自由にレイアウトできるようにしている。	利用者が、自宅での生活感を持続できるように、仏壇やなじみの物を持ち込み、安心してその人らしく生活できるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、必要なところには手すりが設置されている。トイレや風呂場の表示及び各居室には表札が付けられ、似顔絵もかけられていて、親しみがもて、すぐわかるようになっている。		